



# 2017年12月期 1Q 決算説明資料

2017年5月12日  
株式会社フルキャストホールディングス (4848)

- P3 FY2017 1Q 業績サマリー
- P5 FY2017 1Q 連結業績（2017年1月～3月）
- P8 FY2017 1Q セグメント業績 短期業務支援事業（2017年1月～3月）
- P11 FY2017 1Q セグメント業績 営業支援事業（2017年1月～3月）
- P13 FY2017 1Q セグメント業績 警備・その他事業（2017年1月～3月）
- P15 FY2017 セグメント別業績予想の表示組換えについて
- P17 FY2017 1Q 業績予想進捗

- 当資料では、セグメントである短期業務支援事業の表記を「短期」、以下に記す営業支援事業を「営業」と一部で記載しております。
- 当第1四半期連結会計期間において株式会社エフプレインの株式を取得し、同社及びその子会社である株式会社エムズラインを新たに連結の範囲に含めたことに伴い、「営業支援事業」セグメントを新設しております。なお、比較対象となる前年実績がないことから、前年同期比較は行わず、実績のみを開示しております。
- 2016年12月期連結会計期間において株式会社ディメンションポケッツの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い、従来の「警備事業」を「警備・その他事業」にセグメント名称を変更しております。
- 連結子会社のうち、株式会社ディメンションポケッツの決算日は1月31日、株式会社エフプレイン及びその子会社の株式会社エムズラインの決算日は9月30日であります。連結財務諸表の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。
- 当資料では、2012年10月1日の労働者派遣法改正法の施行に合わせて開始した、短期業務支援事業における「アルバイト紹介」を「紹介」、「アルバイト給与管理代行」及び「マイナンバー管理代行」並びに「年末調整事務代行」を「代行」と各々サービス名を省略して記載しております。また、労働者派遣法改正法の施行後も継続して行っている契約期間が31日以上「長期派遣」サービスを「派遣」と記載しております。

# FY2017 1Q 業績サマリー

## ● 連結業績は好調に推移

- 短期業務支援事業における主力サービスである「紹介」が伸張したことを主因として、連結業績は前年同期比で増収増益となった。
- 第2四半期累計期間業績予想に対して、営業利益（進捗率60.4%）、経常利益（同59.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益（同77.2%）が好調に推移した。

## ● 株式会社エフプレイン連結子会社化

- 株式会社エフプレイン及びその子会社である株式会社エムズラインを連結子会社としたことに伴い、「営業支援事業」セグメントを新設した。
- 株式会社エフプレインの株式取得に伴い「段階取得に係る差益（※）」167百万円を特別利益に計上した。

※ 「段階取得に係る差益」とは、持分法適用関連会社であった株式会社エフプレインの株式の追加取得により子会社化した際に、従来の持分を時価で見直し時価が簿価を上回っているために発生した、現金の移動を伴わない差益であります。

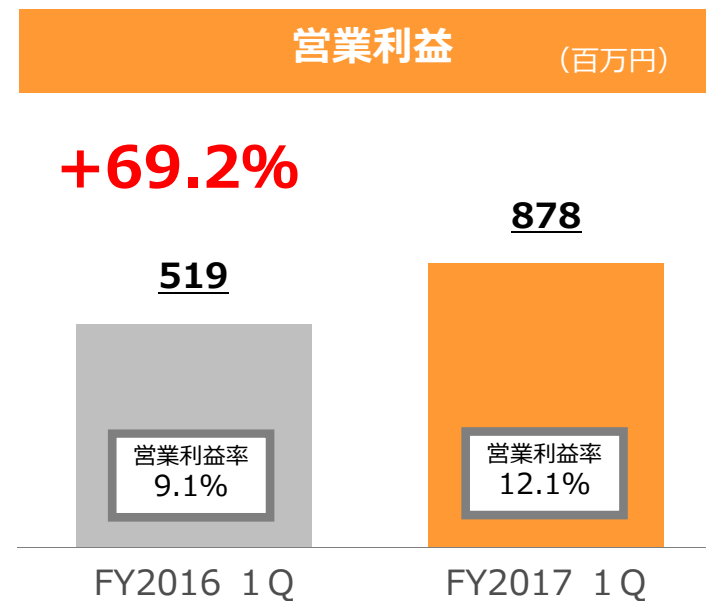
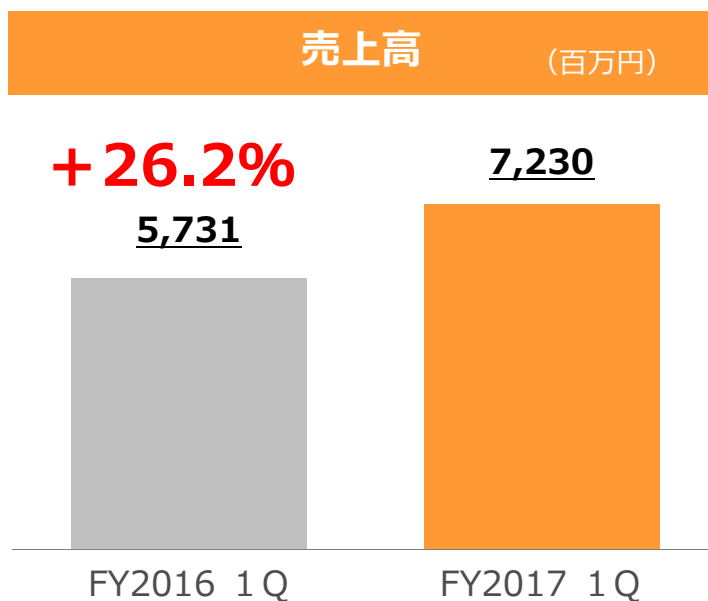
# FY2017 1Q 連結業績 (2017年1月~3月)

## 【売上高増減要因】

- ✓ 短期業務支援事業において、主力サービスである「紹介」が堅調に伸張したことに加えて、株式会社エフプレインを連結子会社とし同社及びその子会社である株式会社エムズラインの損益を取り込んだことにより、前年同期比で**26.2%の増収**となった。

## 【営業利益増減要因】

- ✓ 短期業務支援事業における増収効果により営業利益は、前年同期比**69.2%の増益**となった。
- ✓ グループ全体で生産性を向上させ、売上高及び売上総利益の増加に対し人件費を中心に、販管費率を抑制したことにより、**営業利益率が3.1PT改善**した。



# 連結) FY2017 1Q 前年同期比較

- ✓ 株式会社エフプレインの株式取得に伴い「持分法による投資利益」が前年同期比で減少したものの、営業利益の増益効果により、経常利益は前年同期比で**50.1%増**となった。
- ✓ 株式会社エフプレインの株式取得に伴い特別利益に「段階取得に係る差益」167百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は**47.9%増**となった。

※ 「段階取得に係る差益」とは、持分法適用関連会社であった株式会社エフプレインの株式の追加取得により子会社化した際に、従来の持分を時価で見直し時価が簿価を上回っているために発生した、現金の移動を伴わない差益であります。

## ■ FY2017 1Q 前年同期比較

(百万円)

	FY2016 1Q	FY2017 1Q	増減額	増減率
売上高	5,731	7,230	1,499	26.2%
売上総利益	2,105	2,856	751	35.7%
販管費	1,586	1,979	392	24.7%
営業利益	519	878	359	69.2%
営業利益率	9.1%	12.1%	—	3.1PT
経常利益	587	882	294	50.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	481	711	230	47.9%

# FY2017 1Q 短期業務支援事業業績 (2017年1月~3月)

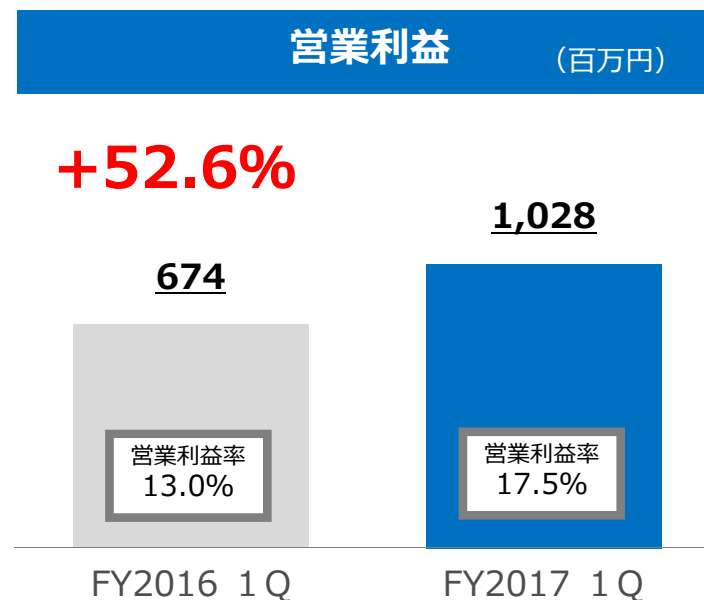
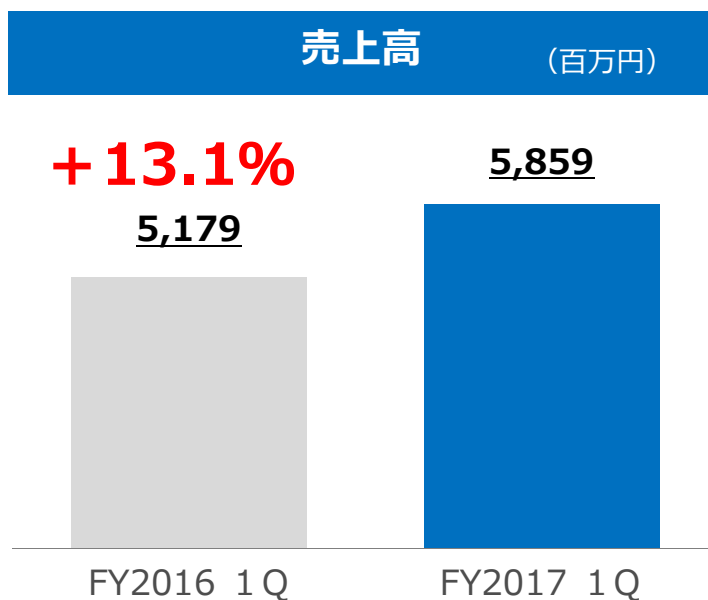


## 【売上高増減要因】

- ✓ 顧客企業からの人員ニーズに応え、主力サービスである「紹介」を伸張させたことを主因として、前年同期比で**13.1%の増収**となった。

## 【営業利益増減要因】

- ✓ 増収効果により営業利益は、前年同期比**52.6%の増益**となった。
- ✓ 増収効果と共に、アルバイトの積極登用や日常業務の見直し等による生産性向上に対する取り組みを継続し、人件費率を抑制したことを主因として、販管費率を抑制したことから、**営業利益率が4.5PT改善**した。



# 短期) FY2017 1Q 前年同期比較

## ■ サービス区分別 前年同期比較

(百万円)

	FY2016 1Q	FY2017 1Q	増減	増減率
売上高	5,179	5,859	680	13.1%
紹介	853	1,099	246	28.9%
代行	594	650	56	9.5%
派遣	3,197	3,589	392	12.3%
請負	537	521	▲15	▲2.8%
売上総利益	2,005	2,362	357	17.8%
紹介	810	1,056	246	30.4%
代行	589	648	59	10.0%
派遣	492	543	51	10.4%
請負	114	115	1	0.9%



顧客企業の旺盛な短期人員ニーズに対応しうる人員供給力を維持できたことにより、基本戦略である取引顧客数拡大を実現させ、主力サービスである「紹介」が伸張した。

- 「代行」サービスは、「アルバイト給与管理代行」及び「マイナンバー管理代行」並びに「年末調整事務代行」を合算しております。
- 2016年12月期期末決算より「短期業務支援事業」におけるサービス区分別売上高及び売上総利益の集計方法を変更しております。前年同期実績においても2016年12月期期末決算から採用した集計方法に置き換えております。
- 当第1四半期会計期間より、2017年3月1日に営業を開始した株式会社フルキャストシニアワークスの実績を含めております。
- これらの数値は参考数値であり、監査法人の監査を受けておりません。

# FY2017 1Q 営業支援事業業績 (2017年1月～3月)

- 当第1四半期連結会計期間において株式会社エフブレインの株式を取得し、同社及びその子会社である株式会社エムズラインを新たに連結の範囲に含めたことに伴い、「営業支援事業」セグメントを新設しております。なお、比較対象となる前年実績がないことから、前年同期比較は行わず、実績のみを開示しております。
- 「営業支援事業」セグメントに属する株式会社エフブレイン及びその子会社である株式会社エムズラインの決算日は、9月30日であります。連結財務諸表の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

## 【売上高増減要因】

- ✓ 営業支援事業を構成する株式会社エフプレイン(以下、「F P N」と言う。)及び株式会社エムズライン(以下、「M L」と言う。)における主たる事業内容である、インターネット回線の販売業務に係る売上高を計上したことで、売上高は**855百万円**となった。

## 【営業利益増減要因】

- ✓ F P N株式取得に係るのれん償却額を当該セグメントに計上していることに加えて、F P N及びM Lにとって1~3月は閑散期に該当することにより、営業利益は**19百万円**となった。

- 営業支援事業は、主として「コールセンター事業」、「WEB事業」及び「アライアンス事業」並びに「エンターテインメント事業」を行っております。
- 「コールセンター事業」及び「WEB事業」並びに「アライアンス事業」は、いずれもインターネット回線の販売業務を行っております。
- 前期実績を開示していないため、2017年12月期第1四半期会計期間実績のみ、記載しております。

売上高 (百万円)

**855**

FY2017 1Q

営業利益 (百万円)

**19**

営業利益率  
2.2%

FY2017 1Q

# FY2017 1Q

## 警備・その他事業業績

### (2017年1月～3月)

- 2016年12月期第3四半期連結会計期間において株式会社ディメンションポケットの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い、従来の「警備事業」を「警備・その他事業」にセグメント名称を変更しております。
- 「警備・その他事業」セグメントに属する株式会社ディメンションポケットの決算日は、1月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

## 【売上高増減要因】

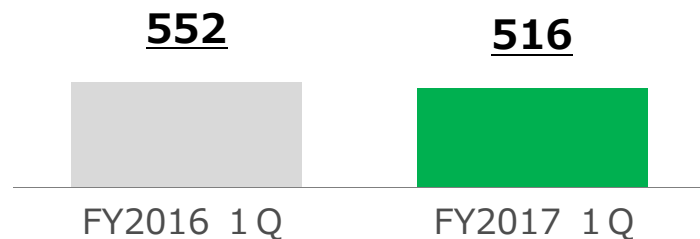
- ✓ 主として、臨時警備における入札案件が前期実績を割り込んだことから、前年同期比で**6.5%の減収**となった。

## 【営業利益増減要因】

- ✓ 警備事業における減収の影響があったものの、警備事業において、人件費及び求人費を中心に販管費を抑制した結果、営業利益は前年同期比で**21.6%の増益**となった。

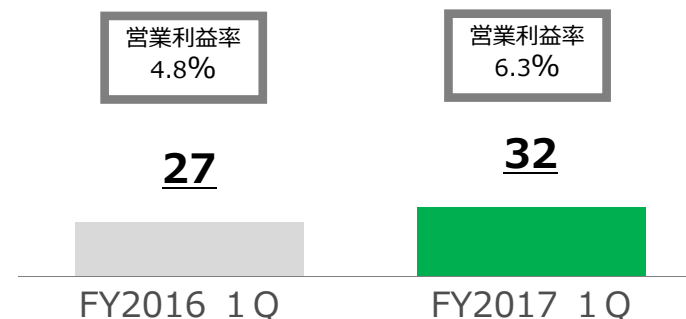
### 売上高 (百万円)

▲6.5%



### 営業利益 (百万円)

+21.6%



# FY2017 セグメント別業績予想の 表示組換えについて

# 2017年12月期 セグメント別業績予想の表示組換えについて

- ✓ 2017年1月26日付で株式会社エフプレインの株式を取得し、同社及びその子会社である株式会社エムズラインを新たに連結の範囲に含めたことに伴い、独立したセグメントとして管理するに足る十分な収益性を備えていることから、「営業支援事業」セグメントを新設した。
- ✓ 「営業支援事業」セグメントの新設に伴い、2016年12月期業績説明資料で公表したセグメント別売上高の業績予想について、新たなセグメント区分に合せ表示組換えを行った。

[売上高] (百万円)

	FY2016 実績	FY2017 業績予想	増減率
短期業務支援事業	23,225	24,956	7.5%
警備・その他事業	2,116	5,045	138.4%



[売上高] (百万円)

	FY2016 実績	FY2017 業績予想	増減率
短期業務支援事業	23,225	24,956	7.5%
営業支援事業	—	3,114	—
警備・その他事業	2,116	1,931	-8.7%



# FY2017 1Q 業績予想進捗

# FY2017 業績予想進捗

- ✓ 第1四半期連結会計期間業績は短期業務支援事業の牽引により、第2四半期累計期間業績予想に対して営業利益及び経常利益並びに親会社株主に帰属する四半期純利益が好調に推移した。
- ✓ 第1四半期業績は、親会社株主に帰属する四半期純利益が半期予想に対し**77.2%の進捗率**であるが、業績予想の修正を要する水準に至るか不透明であり、現時点では第2四半期累計期間業績予想及び通期業績予想の修正は行わない。

(百万円)

	FY2017 1Q	FY2017 2Q累計予想	進捗率	FY2017 通期予想	進捗率
売上高	7,230	14,323	50.5%	30,000	24.1%
売上総利益	2,856	5,559	51.4%	11,592	24.6%
営業利益	878	1,452	60.4%	3,230	27.2%
経常利益	882	1,489	59.2%	3,300	26.7%
親会社株主に帰属する四 半期純利益	711	921	77.2%	2,123	33.5%
セグメント別売上高					
短期業務支援事業	5,859	—	—	24,956	23.5%
営業支援事業	855	—	—	3,114	27.5%
警備・その他	516	—	—	1,931	26.7%

➤ セグメント別売上高の第2四半期累計期間業績予想は開示しておりません。

# (参考) 資本政策の基本的な方針

## ■ 資本政策の基本的な方針

当社グループは「持続的な企業価値向上」を実現するために、適切な資本効率性及び財務健全性を保持することを基本的な方針とします。

- ✓ 「企業価値向上」を支える指標として、適切な資本効率性を保持するため、株主還元の目標を調整後当期純利益(※)に対する総還元性向50%としております。
- ✓ 調整後当期純利益に対するROE20%以上を「企業価値向上」を示す目標指標としております。
- ✓ 「企業価値向上」を実現するため、また適切な財務健全性を確保するためDEレシオ上限0.5倍としております。

※ 「調整後当期純利益」とは、繰越欠損金に対する繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額の影響を除いた親会社株主に帰属する当期純利益であります。当社では、「調整後当期純利益」を総還元性向及びROE算出の基礎として使用しております。

# すべての人をいちばん輝ける場所へ。



## 米国預託証券プログラム：

プログラムの種類：Level-1 スポンサー付き

原株との交換比率：1ADR = 原株1株  
米国証券コード（CUSIP）：35968P100

Symbol：FULCY  
預託銀行：バンクオブニューヨークメロン

101 Barclay Street, New York, NY 10286, U.S.A.

TEL：(212) 815-2077

U.S. Toll Free：(888) 269-2377 (888-BNY-ADRS)

Web Site：[http://www.adrbny.com/dr\\_profile.jsp?cusip=35968P100](http://www.adrbny.com/dr_profile.jsp?cusip=35968P100)

## 【お問い合わせ先】

IR課：03 - 4530 - 4830  
URL：<http://www.fullcastholdings.co.jp/ir>  
Email：[IR@fullcast.co.jp](mailto:IR@fullcast.co.jp)

Fullcast Holdings IR資料は情報の提供を目的としており、投資等を勧誘するものではありません。最終的な判断はご自身でお願いいたします。また情報の内容につきましては万全を期しておりますが、内容を保証するものではありません。本文、データなどに関する正確性、信頼性、安全性などから起因する直接的、間接的あるいは程度を問わずこれらの情報によって生じた損害につきましては当社は一切の責任を負いません。Fullcast Holdings IR資料の著作権は当社に属し、当社に無断で転用することを禁じます。